

青少年育成センターだより

第40号 平成30年4月



「自分が持っているお金の1%を社会のために使う。自分が持っている時間の1%を社会のために使う。もし、両方とも持っていなければ自分の心の1%を社会のために使う」ある雑誌に、娘さんが父親から聞いた言葉として紹介されていました。このような言葉



を自分の子どもに伝えられるお父さんって素晴らしいですね。きっと、このようなお父さんから育てられた子どもは、幸せに生きていくことなのでしょう。最近では、日本においてもボランティア活動が盛んになり、人のために働く人が増えてきました。世界中の人たちがこのような思いを持ち、助け合うことができれば、この地球から戦争をはじめ様々な争い事がなくなり、平和な世の中になることなのでしょうね。

よい言語環境の中で育てる

防府市内には市長から委嘱された152名の「防府市青少年補導員」の方々がおられます。補導員の方々には、町内の巡視・補導を行い、気になる子どもには声をかけたり、子どもにとって有害な環境や危険個所を点検したりするなど、子どもの健全育成に大きく尽力してもらっています。以前多かった少年による万引き行為もここ数年少なくなってきたことは補導員の方々の功績でもあるでしょう。

青少年育成センターには、毎月巡視・補導の報告書が届きます。報告書の中の「気づき等」の欄に気になった記載がありましたので、ここで皆さんに紹介します。一緒に考えてみましょう。

小学1、2年生が下校時「そんなことをしたらぶっ殺す」とかわいい顔で言った。こんな言葉が日常の会話に使われているのでしょうか？世の中の事件のことが頭に浮かびました。防ぐ方法はあるのでしょうか。

いかがでしょうか？みなさんも、子どものこのような発言を聞いてドキッとした経験をされた方も多いのではないのでしょうか。

なぜ、子どもたちはこのような言葉を使うのでしょうか。おそらく、子どもたちにとってこのような言葉を聞く機会が多く、本来の意味がわからないまま使っているのではないのでしょうか。しかし、意味が分からないから使っていいと認めるわけにはいけません。

「言霊」という言葉があります。言葉には霊が宿り、言ったことが現実になると言われます。「ばか」「あほ」とか「死ぬ」とかいう言葉を聞くと誰でも不愉快な気持ちになります。それは、言葉には霊が宿り、相手の気持ちに入りこむからなのでしょう。

子どもの言葉を変えるには、言語環境を整えることです。そして、子どもがいけない言葉を使ったときにはその都度、そのような言葉を使うものではないということをきちんと伝えることです。

私たち大人や親自身が使わないようにし、良いモデルになることが一番大切なことでしょう。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）